

船舶

三井ブランドと世界トップレベルの設計力・建造技術を有する強みを活かし、「強い事業のさらなる強化」「成長事業への注力」「不採算事業の変革」を重点課題として推進します。

三井E&S造船株式会社
代表取締役社長
古賀 哲郎

【環境認識と課題】

海運・造船市況は依然として低迷しており、2025年前後までは供給過剰の状態が続く見通しです。中長期的にも、需給ギャップの解消に至らず、船価の戻りが小さいことも懸念されます。課題としては、一般商船は現状の船価レベルでは適正な利益確保が困難、一般管理費など固定費負担が大きいことが挙げられます。

【機会と当社の強み】

開発設計力、建造力、研究所、ガス技術、ブランド力に長け、艦艇・官公庁船では、高い技術力と実績を有しています。安全保障や海上保安に対する要請は一層重視されており、また、新興国を中心としたLNG需要の増大にも対応していきます。

事業環境と業績

米中貿易摩擦の深刻化や、ブラジル資源大手の鉱山ダム決壊事故による出荷量の大幅減、目撃に迫っている環境規制の厳格化など先行き不透明な状況が影響し、海運・造船市況は低迷が続いています。

その一方でガス船分野では、LNG輸出プロジェクトへの投資が堅調に推移しており、大型LNG船の新造商談に加え、中小型LNG船やLNGバンカリング船の発注計画も動きはじめています。また、資源開発船分野では、主要産油国の協調減産・地政学的リスクの高まりから原油価格は上昇基調にあり、エネルギー資源の安定供給の観点からも海洋石油開発は世界各地で継続的に実施されており、これらに投入されるFPSO（浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備）等の整備も活発です。

こうしたなか、採算改善を図りながら選別的な受注活動の取り組みを高め、当年度の受注高は、省エネ船の先行ヤードとしての強みを活かして、環境対応型ばら積み貨物運搬船を11隻積み上げたほか、防衛省向け艦船を含む官公庁船等により、前年度と比べて62億円増加（+5.9%）の1,132億円となりました。しかしながら、売上高はこれまでの造船市況低迷期に受注を抑制した影響で年間計画操業量を抑えたこと等により、156億円減少（△13.9%）の969億円となりました。営業損益は従来から進めているコスト改善施策が奏功し、既受注工事の採算改善に取り組んだ結果、71億円改善の81億円の営業損失となりました。

事業再生計画

商船の供給過剰と低船価状態が続くなか、船舶事業では、受注優先主義から利益追求への転換を加速していくため、三井ブランドと世界トップレベルの設計力・建造技術を有する強みを活かし、「強い事業のさらなる強化」「成長事業への注力」「不採算事業の変革」を重点課題とした取り組みを推進します。

「強い事業のさらなる強化」としては、国防保安・修繕事業に注力します。適正利益を確保している艦艇・官公庁船や修繕事業を強化していきます。特に当社が高い競争力を有する国防保安分野については、各省庁より防衛力の強化、戦略的海上保安体制ならびに漁業取締体制の強化推進が発表され、艦船、大型巡視船、漁業取締船、練習船などが予算化されています。この増勢・代替需要は底堅く、今後も継続すると見込んでおり、確実な受注確保を目指します。

「成長事業への注力」としては、エネルギー・環境領域に軸足を置きます。具体的には、新しいガス燃料船などの新船型の開発を進める一方で、エネルギーエンジニアリング事業（海洋FPSO・ガスビジネス等）を推進するための新組織を設立します。また、資源開発船分野において、中古タンカーの

改造が主流のFPSOに対して耐久性に優れた新造船体を短納期で供給するFPSO船体「noah」のライセンス供与とエンジニアリングサービスのビジネス展開により、海洋ブランドの確立を図ります。加えて、「自律操船システム事業推進室」を設置し、自律化船の実用化にも注力します。

「不採算事業の変革」としては、千葉工場の商船新造事業を縮小し、エネルギーエンジニアリングおよび大型鋼構造物の事業に注力する体制に変換します。一方で、自前主義にこだわらず、グループ外企業と協業を進めていきます。すでに2018年5月、商船事業分野において、設計開発力、コスト競争力を相互に補完・強化することで常石造船（株）と業務提携契約を締結しました。続く10月には、中国の民間最大手の造船会社である揚子江船業（控股）有限公司および三井物産（株）との間で合弁会社「江蘇揚子三井造船有限公司」の設立を決め、2019年8月1日に事業運営を開始しました。揚子江船業の豊富な生産能力と三井物産の幅広い営業力、並びに当社の高度な技術力を融合させて、国際競争力のある造船業を目指します。

TOPICS

LPG運搬船向けガスハンドリングシステムの製造事業を千葉工場にてスタート



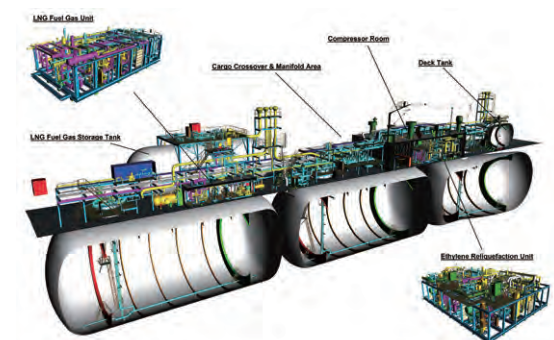
三井E&S造船の千葉工場において、中小型ガス運搬船向けタンク製造事業を開始しました。

第1号案件として、佐々木造船株式会社より5,000m³ LPG運搬船1隻のガス関連設備工事を受注しています。当社は、LPG運搬船のガスハンドリングシステムの設計、ガス機器装置の支給、タンク製造、据付工事および艀装工事を一括して請け負います。LPG運搬船のガスハンドリングシステムを子会社であるTGE社と共同で設計し、同工場でガスタンクの製造・搭載及び艀装工事を行います。

三井E&Sグループは、独法人TGE Marine AGを2015年に子会社化し、TGE社のガスエンジニアリング技術と当社の設計・製造技術を組み合わせ、国内の顧客に中小型ガス船のガスハンドリングシステムのEPCS（Engineering, Procurement, Construction,

Supervising）サービスを提供して参りました。

このEPCSサービスに、同工場でのタンク製造・ガス艀装サービスを加えることで、更に付加価値の高いソリューションの顧客への提供を目指し、事業ポートフォリオの更なる拡充につなげます。



燃料ガス供給システム IMO Type C 液化ガスタンク